

解説

東日本大震災復興状況視察報告会

災害前にできる「復興」がある



総会前に開かれた報告会でパネルディスカッション

1 東日本大震災後に建てられた真新しい公営住宅、コミュニティ施設、防波堤——。スクリーンに映されたのは、昨年10月21日から22日の2日間にかけて、JIA長野県クラブが宮城県の被災地を視察した際に収めた写真だ。同会では総会に先立つ会員集会で「東日本大震災

JIA 長野県クラブ

復興状況視察報告会」を行った。震災復興のまちづくりについて考える」を国が主導して被災地で開催し、参加者全員で「JIA長野県クラブ」として災害に対してどういうことをやっていけばいいのかを、視察を通して感じた印象とともにディスカッションした。

あつた景色がなくなり、ホッとしたりとう建物力ない人たちの声が届かなくなった。建築は数値でないまちづくりが進んでいく心と情だ。められる危険がある」学んだ。合理的なだけ、ファシリテーターを務めた丸山幸弘氏が「冒頭で問題を提起。これを受けて、パネリストたちからは「都市の人間関係と地域の人間関係は違う。合意形成のハードルは高く、全員の納得することは難しい。行政の苦勞を感じたし、評価したい」としながらも「中央の視点だけで復興を進めていく場所もあった」という感想や「まず住むところが必要だし、行動には会員数の多いJIAでは対応できない視点もある。ただ、コミュニケーションが切れなってしまう心配はある」などの声があがった。

「復興で住まいがなくなるときに、まちづくりの話を打ち込むのはかなり難しい。家がなくなっているときに『街並みを考えよう』といえるのか。ぐちゃぐちゃしたものや自分の中に感じる」と話したのは、今年度から新代表となる荒井洋氏だ。からこそ、災害が起きている前、正常な意識のうちにやるべきことが、災害が起きる前にできることを考えてい

建築家の職能生かすまちづくり

あつた景色がなくなり、ホッとしたりとう建物力ない人たちの声が届かなくなった。建築は数値でないまちづくりが進んでいく心と情だ。められる危険がある」学んだ。合理的なだけ、ファシリテーターを務めた丸山幸弘氏が「冒頭で問題を提起。これを受けて、パネリストたちからは「都市の人間関係と地域の人間関係は違う。合意形成のハードルは高く、全員の納得することは難しい。行政の苦勞を感じたし、評価したい」としながらも「中央の視点だけで復興を進めていく場所もあった」という感想や「まず住むところが必要だし、行動には会員数の多いJIAでは対応できない視点もある。ただ、コミュニケーションが切れなってしまう心配はある」などの声があがった。

「復興で住まいがなくなるときに、まちづくりの話を打ち込むのはかなり難しい。家がなくなっているときに『街並みを考えよう』といえるのか。ぐちゃぐちゃしたものや自分の中に感じる」と話したのは、今年度から新代表となる荒井洋氏だ。からこそ、災害が起きている前、正常な意識のうちにやるべきことが、災害が起きる前にできることを考えてい